

EXPEDITION TO THE YUKON RIVER

From the source to the mouth.

- 1 9 9 4 -

ユーコン河全流航行

計 画 概 略

(1993. 6月現在)

記：商学部3回生 春日 常貴



趣 旨

我が部がタリム川航行に成功してから早くも2年の月日が過ぎました。その間暖め続けてきた計画が、砂漠とは正反対の極地方に近い河川をカヌーで航行するというものでした。我々はそのフィールドをアラスカのユーコン河に見いできました。短い夏が終われば瞬く間に辺り一面凍りつき、人間の侵入を容易に許さぬラスト・フロンティアとも呼ばれる大地を貫流している大河川、それこそ我々の心のコンパスが常に指していたフィールドなのです。

全長3000kmの川に自力で、つまり手漕ぎで挑戦することが社会的に何の意味を持っているのかはよく分かりません。しかし、科学文明が発達し交通機関を利用すれば世界各地どこでも容易に行けるようになった今こそ、自力で自然に挑戦することにより、自分自身の、延いては人間の可能性を再発見し、この計画を耳にした人に夢を与えることができるのではないかと考えています。また、手漕ぎによる大河川航行は部内でもあまり経験がなく、今後の我が部の大河川手漕ぎ航行の可能性を広げることに貢献できるのではないかと考えています。

ユーコン河は決して前人未踏の河川ではありません。しかし、大陸の自然は何もかも日本とはケタはずれのスケールでその気候、動植物は、あるときは脅威あるときと感動となって姿を現し、我々の好奇心を満たしてくれるものと期待しています。

目 的

ユーコン河において、源流湖沼からベーリング海までの約3000kmを、手漕ぎで全流航行する。

— 最後に、皆様の御理解・御協力を宜しくお願い致します。 —



隊員構成

言語

役職 氏名・学部学年 生年月日 血液型 住所・帰省先

隊長 春日 常貴 (工学部 3 回生)

副隊長 鹿野 修三 (社会学部 3 回生)

装束・備 藤巻 正雄 (社会学部 2 回生)

食料 関谷 雅彰 (工学部 2 回生)

医療 高木 誠徳 (法学部 2 回生)

会計 戸谷 真一 (商学部 2 回生)

《連絡体制》

未定

未定

地域概略

《カナダ ユーコン準州》

ユーコンはノースウェスト準州と並ぶカナダの準州。日本の3倍という広大な地域のほとんどは氷河が造り上げた山や湖、川におおわれ、手つかずの自然を残している。1898年、カナダ北部の荒野で金が発見されたのをきっかけに、金を捜し求める人々がこの一帯を目指し、いわゆるKlondike Gold Rush を引き起こした。現在もその足跡は各地に残り、訪れる人の目をひく。

《アメリカ アラスカ州》

アメリカ最大の州アラスカは、面積アメリカ第2のテキサス州の2倍強あり実に日本の4倍強の面積にあたる。この広大な地域の95%以上は、いまだに原生自然のままのエコシステムを保っており、アラスカ全土の34%（日本の1.35倍）が国立公園、国立保護区、国定野性保護区に指定されている。原生自然地域は、世界最大のマラスピナ氷河を含む大小約5000の氷河や、北米大陸最高峰のマッキンリー山と、北米大陸ベスト20内に入る17峰を含む山岳地帯、そして北米第4の長さを持つユーコン河を含む大小約3000の河川と300万を超える湖沼があり、アラスカの32%を覆っている森林もほとんど手つかずの状態と言ってよい。

《原住民》

ユーコン河流域にはアサバスカインディアンと河口近くにユピックエスキモーが住んでいる。カナダの川沿い町は住民の殆どが白人である。アラスカに入るとどの村でも大多数が先住民である。

河川概略

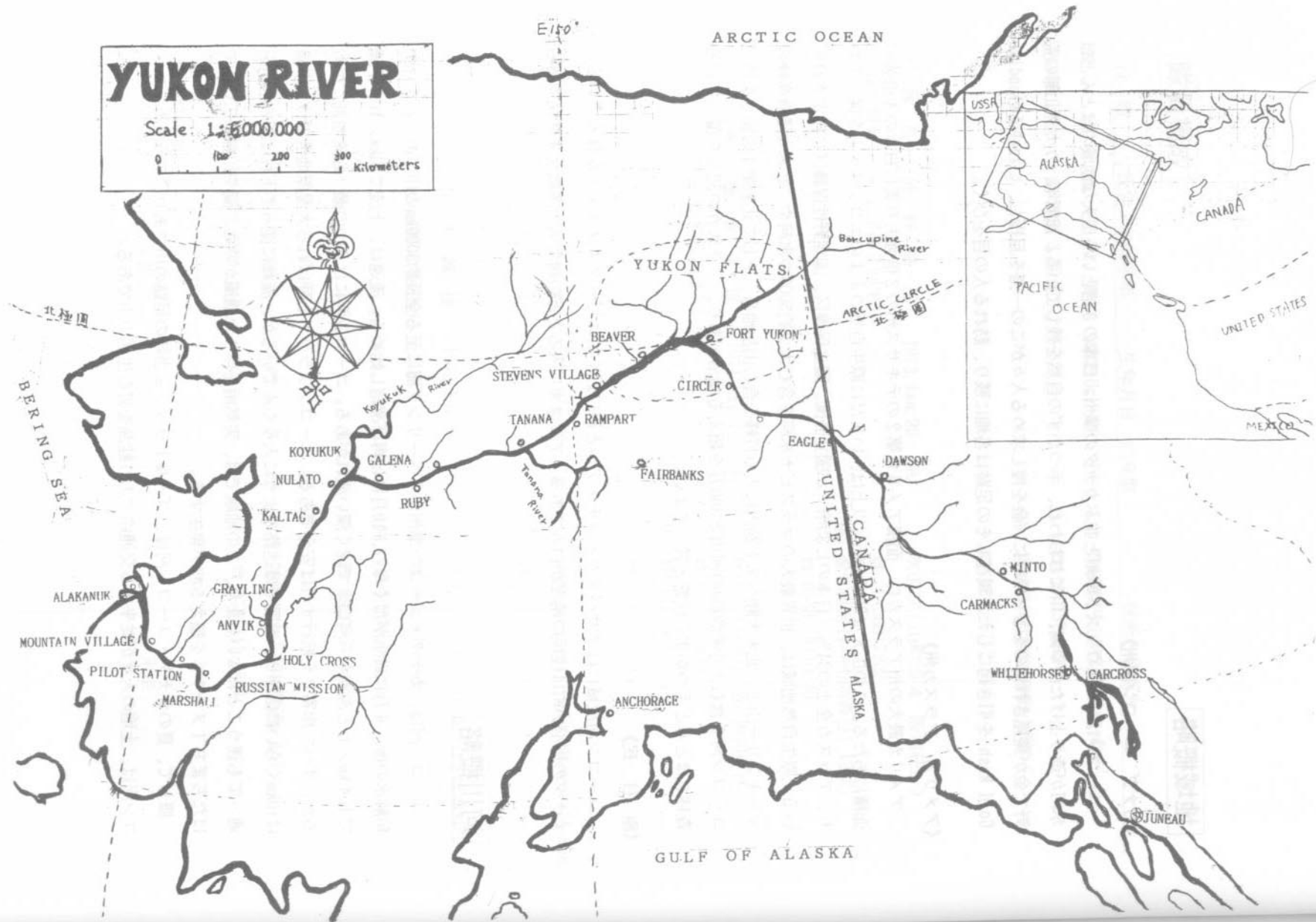
ユーコン河は、カナダ・ユーコン準州からベーリング海に至る全長約3000kmの川である。5月中旬解氷の後、6月には氷がなくなり、10月には再び凍結し始める。流速は、上流で10km/h、下流でも4km/hと源流から河口まで速く深い流れがある。ユーコン河には3つの瀬（急流地帯）があるが、すべて岸寄りを航行すれば安全である。ユーコンフラットと呼ばれる大湿原地帯では、川幅は10kmくらいに広がり、地図では迷路のように入りくんでいるが、流れに従って下ればどの水路を通っても迷うことはない。また、この地域では、突然雨を伴った強風が吹き、湖や川幅の広い所ではたちまち1メートルを超える波が発生する。

概して、夏のカナダ・ユーコン河は、ゴールドラッシュ当時の足跡の川であり、アラスカ・ユーコン河は、土地の人々が従来する交通路であり鮭漁を営む生活の川である。

YUKON RIVER

Scale: 1:5,000,000

0 100 200 300 Kilometers



計画概略

1. 計画実施期間 1994年5月中旬～9月中旬
2. 遠征地 ユーコン河流域 (カナダ・ユーコン準州・アメリカ合衆国・アラスカ州)
3. カヌー乗員 関西大学探検部員6名
4. カヌー航行 使用カヌー：カナディアンカヌー
総航行距離：3070km
5. 補給 食糧、その他の物資は流域の町村で補給したり、日本から現地郵便局止めで予め送っておく。

移動計画 ※詳細は未定。

日程		備 考
1994年 5/	大阪空港→多→Vancouver→多→Whitehorse	※航空便未定
~	Whitehorseで出発準備	※宿泊先未定
	Whitehorse→多→源流湖	※チャーター機使用

カヌー航行計画

日程	行 程	距 離	備 考
6/ 3 ~ 4	(カナダ領ユーコン河) 源流湖沼群 Bennett Lake West Arm ⇒Carcoss	50km	・Bennet Lake(湖幅1~4km)を航行。
6 ~ 9	Carcoss ⇒Whitehorse	120km (累計 170km)	・Tagish Lake(湖幅2~5km, 全長40km) Marsh Lake(湖幅5km, 全長30km)を通過。
11 ~17	Whitehorse ⇒Carmacks	290km (累計 460km)	・Lake Laberge (湖幅3~7km, 全長48km)を通過。 ・川幅1km。 ※Carmacksで日本からの郵送物資受け取り。
19 ~20	Carmacks ⇒Minto	100km (累計 560km)	・Carmacks下流に2か所急流地帯有り ・川幅0.5~1km。
22 ~26	Minto ⇒Dawson	300km (累計 860km)	・川幅1~3km。
28 ~30	Dawson ⇒Eagle	160km (累計1020km)	・1~2.5km。 ※Eaglにてアメリカ領入国手続き。

日程	行程	距離	備考
7/ 3 ~ 6	(アメリカ領ユーコン河) Eagle ⇨ Circle	250km (累計1270km)	・川幅1~3km。 ※Circle
8 ~10	Circle ⇨ Fort Yukon	120km (累計1390km)	・Circleから下流はYukon Flat(大湿原地帯)に突入。Stevens Village までの370kmは川幅が10kmを越え、多数の島が出現し迷路状態になる。 ・Fort Yukonで北極圏到達。
12 ~14	Fort Yukon ⇨ Beaver	120km (累計1510km)	・川幅2~10km。
16 ~18	Beaver Village⇨Stevens	130km (累計1640km)	・川幅2~10km。
20 ~22	Stevens Village ⇨ Rampart	120km (累計1760km)	・川幅1.5~3km。
24 ~25	Rampart ⇨ Tanana	120km (累計1880km)	・Rampart 下流に急流地帯有り。 ・川幅1~4km。 ※Tananaで日本からの郵送物資受け取り。
27 ~31	Tanana ⇨ Ruby	200km (累計2080km)	・川幅2~5km。
8/ 3 ~ 4	Ruby ⇨ Galena	90km (累計2170km)	・川幅2~3km。
6 ~ 7	Galena ⇨ Koyukuk	60km (累計2230km)	・川幅2~3km。
8	Koyukuk ⇨ Nulato	30km (累計2260km)	・川幅3km。
9 ~10	Nulato ⇨ Kaltag	70km (累計2320km)	・川幅2~4km。 ※Kaltagで日本からの郵送物資受け取り。
12 ~16	Kaltag ⇨ Grayling	120km (累計2520km)	・川幅2~7km。
18	Grayling ⇨ Anvik	30km (累計2550km)	・川幅2~5km。
19 ~20	Anvik ⇨ Holy Cross	70km (累計2620km)	・川幅2~7km。
21 ~23	Holy Cross ⇨ Rusian Mission	120km (累計2740km)	・川幅2~7km。
25 ~26	Rusian Mission⇨Marshall	90km (累計2830km)	・川幅2~7km。
27 ~28	Marshall ⇨ Pilot Station	70km (累計2900km)	・川幅1~9km。 ※Pilot Station で日本からの郵送物資受け取り。
30 ~31	Pilot Station ⇨ Mountain Village	60km (累計2960km)	・川幅2~4km。
9/ 3 ~ 5	Mountain Village ⇨ Alakanuk	110km (累計3070km)	・川幅2~7km。
9/ 6 ~30	予備日		

野性動物について

(資料：アラスカ州観光局)

現地で動物とのトラブルでもっとも多いのが熊に関する事であるので、トラブルを避けるため以下の事に留意する。

1. 子連れ熊は最も危険である。子熊、子連れ熊には決して近づいたり驚かしたりしてはいけない。子熊だけだと思っても必ず近くに母熊がいる。
2. 突然の出会いを避けるため、見通しの悪いところでは音の出るものを身につけて歩く。
3. キャンプ地が決まったら、まわりに熊の足跡がないか調べる。足跡の多い所でのキャンプは避ける。
4. テントの中では炊事をしない。
5. 食料はテントから数十メートル離して置く。
6. テントの近くに残飯を置いたままにしない。辺りを常に清潔にして置く。
7. 威嚇射撃、心理的安全のため銃を携帯する。
8. 木に登ることは急に出会った時には難しいが、時間的余裕があれば有効である。しかし、3メートル以上登らないと熊の爪が届く。
9. 銃を持っていない時、もしも熊に出会った場合には、熊の様子を見ながらゆっくりと熊から離れる。急な動作は熊を驚かすのでやめる。熊が近づいてきた場合は大声を出す。食料をもっていけば熊の方へ投げて気をそらす。それでもまた近づいてきた場合は、手に何か道具を持ち戦うしかない。

以上、熊との遭遇の予防と対策であるが、彼らの行動は予想しがたくこれといった決め手はない。その時々で臨機応変に対処するしかない。狼については、犬科の動物は人間を襲わないと言われていた通り、現地でもトラブルを聞いたことがない。大型草食獣も接近すると危険であるので、常に安全な距離を保っておく。

